

施肥 有機質・土壌改良剤・化学肥料など（購入の場合はメーカー名記入）

使用量はkg/10a

<土づくりの使用資材・肥料について>

商品名	原料	メーカー(購入先)	全N%	化成N%	全P%	化成P%	全K%	化成K%	有機率(%)	使用目的	計画				実績				
											使用量	使用時期	回数	化成窒素kg	使用量	使用時期	回数	化成窒素kg	
メリット青	葉面散布 特殊リン酸(ポリリン酸)	(株)生科研	7	0	5	0	3	0	100	生育促進	2L								
産直有機入り6-8-3	長崎県肥第566号、副産動物糞肥料、6.0フィッシュメリット	長崎油桐工業(株)	6	0	8	0	3	0	100	元肥	200	播種時							
カキライム	牡蠣殻100%	日化工業(株)		0					100	元肥	200	播種時							
苦土石灰	熊本県肥料1268号・炭酸カルシウム	熊本積業(株)		0					100	元肥	150	播種時							
オーガニック7-4-2	兵庫県肥第1614号、混合有機質肥料	高砂肥料工業(株)	7	0	4	0	2	0	100	元肥		播種時							
堆肥	自家製鶏わら、畜糞、近隣の牛糞、厩糞、鶏糞等	自家製		0					100	元肥	3~4t	播種時							

【慣行農法との比較】

*化学肥料

窒素分と比較して 当地比	5	削減
化学肥料	窒素使用量 (kg/10a)	
慣行使用量	20	
計画使用量	10	

*削減対象農薬

当地比	5	削減
削減対象農薬	計画回数	地域の慣行防除
土壌消毒剤		
除草剤		
殺虫剤		
殺菌剤		
その他薬剤		
合計	4	10

病虫害の防除 使用した天然防除資材・自作資材・農薬（成長調整剤、屋蓋剤等を含む）

分類	商品名	原料/成分名	メーカー(購入先)	使用目的	計画					実績					使用量/10a	
					希釈倍率	使用量	使用時期	回数	カウント	希釈倍率	使用量	使用時期	回数	カウント	商品	成分
殺虫	アフーム乳剤	エマメクテン安息香酸塩		マメハモグリバエ、ダニ	2000	100~300L	収穫前日まで		1						2	2
殺虫	プレバソフロアブル5	クロラントラニリプロール		ハモグリバエ類、ハスモンヨトウ	2000	100~300L	収穫前日まで		1	2000	50L	9/8	1	1	3	3
殺虫	ダニロンフロアブル	フェニピロキシメート		ハダニ	1000~2000	100~300L	収穫前日まで		1	2000	50L	9/19	1	1	1	1
殺虫	コルト顆粒水和剤	ピリフルキナゾン		コナジラミ類	4000	100~300L	収穫前日まで		1						3	3
殺菌	アミスター20フロアブル	アゾキシストロビン		菌核病、灰色かび病	2000	100~300L	収穫前日まで		1						3	3
殺菌	アフエツフロアブル	ベンチオピラド		サビ病、灰色かび病、菌核病	2000	100~300L	収穫前日まで		1						3	3
殺虫	グレーシア乳剤	フルキサメタミド		ハモグリバエ類、ハスモンヨトウ	2000~3000	100~300L	収穫前日まで		1						2	2
殺虫	コロマイト乳剤	ミルベメクテン		ハダニ	1500	100~300L	収穫前日まで		0	1500	50L	9/8	1	0	2	2

備考:

肥料は、リストの肥料の中から、化成窒素10kg以下に抑えて使用します。
 農薬は、リストの農薬の中から、最大成分数4回までに抑えて使用します。
 ガイドライン表示には、5削減、5削減で表示します。

中村元治さんの 圃場6-5 (5a) の実績
 化成窒素 0kg、2回。 2023/9/22 現在

	計画(作業、施肥、防除など)	実績(作業)
1月		
2月		
3月		
4月		
5月		
6月		
7月	播種、元肥	播種 7/20~
8月	播種、元肥	播種 ~8/30
9月	収穫、防除	収穫 9/15~
10月	収穫	収穫
11月	収穫	
12月	収穫 ~12/25	

播種開始:	令和5年7月20日
終了:	令和5年8月30日
定植開始:	-
終了:	-
収穫開始:	令和5年9月15日
終了:	令和5年12月25日